

高校生の放課後を救おうプロジェクト

廣瀬乃愛 嶋田諒 千葉彩音

概要

「高校生の放課後を充実させる」という課題をもとに、町民体育館を中心とした公共施設を有効活用したいということから、公共施設の予約状況をオンラインで確認できるようなシステムがあると良いと考えた。

解決策として、暮らしの情報誌『かけはし』を活用することが町民にとっても、私たち、高校にとっても良いものになるだろうと考え提案する。

1. はじめに

私たち高校生が、放課後、運動をしたいと思い町民体育館に行ったものの、団体予約が入っていたため使用できなかったという経験が多々あり、本別町内に住む生徒と他町から本校に通学している生徒との交流する時間や場所は限られているということから、この課題に取り組んだ。

2. 課題について

上記の経験をもとにロジックツリーを利用して、どのようにすれば少しでも生徒同士の交流の時間を無駄なく有効に使えるかを考えた。そこで一つの方法として、予約状況を現地に行かなくても確認できるというシステムがあれば（オンラインで予約状況を確認できるシステム）、現地に行くという手間や時間を省けると考えた。このことから「高校生の放課後を充実させる」という課題を設定することになった。

3. 現状分析について

現状を把握するための、フィールドワークを行った。フィールドワークでは、本別町民体育館に行き担当の方へ質問をした。そこで、町民体育館の利用状況や他の公共施設の利用状況、団体と個人の優先使用時間が決まっていることなど知りたい正確な情報を入手することができた。そして、同時に、新たにオンラインで予約状況を確認できるというシステムを作るということは、現実的に現在の本別町において実現することが難しいということも知ることができた。

4. 仮説について

仮説の設定において、『オンラインで予約状況を確認できるシステム』を考えたが、現状分析を行ったところ、この仮説を実現するということが難しいのではと考えた。そこで、オンラインで予約状況を

確認したいという、小中高生などのたくさんの方の声があれば実現も夢ではないのではないかと私達は考えた。

まず、初めに中学生にアンケート調査を取った。そこから分かったことは、中学生は部活動以外に公共施設を利用する人が少なく、オンラインで予約状況を確認できても活用する人が少ないということだ。中学生のアンケート結果から、この課題は私達高校生にあるのではないかと考え、次に、高校生にアンケートを取った。高校生のアンケート結果から、平日及び休日の公共施設の利用は、町民体育館が最も多く、オンラインで予約状況を確認できるシステムを活用すると答えた人がアンケート回答者の約50%以上を占めていた。このことから一つの計算式を作り、オンライン予約表をつくることにより、現在の利用者から約5人増えるのではないかと考えた。高校生のアンケート結果から、一般の町民の意見も必要と考えアンケートを取った。その結果、一般の方々のほうが高校生より個人での利用が多いことやオンライン予約表を活用したいという声が多かったこと、オンラインだけではなく高齢者のためにも紙媒体してほしいという意見などがあった。このことから、課題を解決する方策についての検討を進めた。

5. 解決策について

解決策は、仮説を実現するために取ったアンケート結果をもとに考えた。まず、お金がかからず簡単にできるものを考えたが、LINE・Instagram・TwitterなどのSNSの活用は、本別町の条例に反することがわかり、すぐに実現することが難しいということになり、今あるものを活用できると良いのではないかとということになり、包括ケア研究所で作成しているWeb「ほっと本別」が良いのではと考えた。しかし、誰もが見られる身近な紙媒体でも情報がほしいという意見も多くあったため、「ほっと本別」では

ない、今あるものでオンラインでも紙媒体でもできるものはないか探した。そこで新たに見つけたものが本別町広報誌「暮らしの情報誌『かけはし』」だった。これは、本別町で全家庭や事業所などに半月に一度配布している広報誌で、行事などの情報や病院の情報などが記載されていたことから、私たちは、その広報誌の中で公共施設の予約状況を記載できると良いと考えた。

6. 成果と課題

成果と課題を以下の通りにまとめた。

〔成果〕

私たちは、「高校生の放課後を充実させる」という課題に対しての解決策は、オンラインでも紙媒体でも予約状況が確認できる「暮らしの情報誌『かけはし』」を活用することが良いだろうと提案した。

模擬議会で発言することはできなかったが、最後まであきらめず課題と向き合い解決策を生み出すことができた。これからもこのような課題を、町の課題の一つとして継続して、1、2年生に取り組んでもらい、いつか実現できることを期待したい。

〔課題〕

総合的な探究の時間「とかち創生学」の授業を通して、課題設定の段階で、私たち高校生を中心として課題を考えており、町民の課題としての発想が欠けていた部分があったこと。早期に、私たちの経験からの課題から、町民の課題へとつなげていくことを考え、議論しながら発表などにおいて論理的に地域などに伝えることができなければ一味違った取組や展開方法があったのではないかなと思う。

7. まとめ

私たちは、「高校生の放課後を充実させる」という課題に、約一年をかけ向き合うことができた。その中で、学んだことが多々ある。まず、正解のない問題に向き合うことの大変さを学んだ。正解がないからこそ、どのように答えを出すと良いかを考え、その後どのように伝えることで自分たちが考えていることを相手に伝えることができるのか、論理的なストーリーにすることが、特に、難しかった。次に、多くのバックデータなど数字で表すことにより議論されている内容の具体が見える化され、わかりやすくなるため、相手の理解を得ることができることも分かった。他にも、物事を論理的に考えることが大切だということや正確な情報をどれだけ相手

に提供できるかを学ぶことができた。しかし、反省としては、仮説を課題設定のロジックツリーを作成する際に十分に議論がなされず、考えた内容をもとに取組を進めてしまったため、現状分析の段階に実現が難しいことを知り、そこからなかなか思い通りに解決策が見つからず、苦労した点である。他にも、アンケート調査を開始するのが遅く短期間でしか実施できなかったことや、高校生を中心として課題を設定してしまったことにより、町全体の問題としてつなげることが難しかった。

この課題については、今後、1、2年生にも継続してほしい。反省でもあるが、高校生だけの視点だけではなく、地域の課題や町民全体の視点に置くことにより、町民が求めている意見が反映され、実現できると考えたからだ。

だが、その背景には、もう一度担当者の方と話し合うことや、より多くの一般の人達の声や、若い方ばかりではなく高齢の方の声にも耳を傾けることが必要なのではないかと考える。幅広い年齢層からの声を集めることができることにより、この解決策が実現されるのではないかと私は考える。

そして、日常の授業で学んでいる国語や数学のように正解のあるものとは違い、この総合的な探究の時間「とかち創生学」ののでは正解のない課題に取り組んだことが良い経験となったので、将来の自分に必ず役立つと思う。

最後に、私たちのために約一年間、より良い活動になるよう意見やサポートをしていただいた、藤井さんをはじめコーチの方、アンケート調査やフィールドワークにご協力をしてくださった方、本当にありがとうございました。

高校生の放課後を救おうプロジェクト

千葉彩音 廣瀬乃愛 嶋田諒

概要

最初に立てた課題は「高校生の放課後を充実させる」で、町民体育館や銀河アリーナなど公共施設の予約状況をオンラインで、できることによって充実するのではないかと考えました。そこで、くらしの情報誌かけはしを活用することによって紙とオンラインの両方で見られることで、町民の方々に活用してもらえるのではないかと考えた。

1. はじめに

高校生が放課後に公共施設を使いたくても予約が入っており、使えないことが多かったのがきっかけとなった。

2. 課題について

放課後に町民体育館などの公共施設を利用しようとしても、いざ、現地について予約表を確認して予約が入っていて使えなかったことが多かったため、そこで高校生の放課後を充実させるにはどうすればいいのかを考えた、そこから考えた課題は予約表を現地に行かないと確認できないということだと考えた。

3. 現状分析について

課題から初めたことは、高校生が普段どの公共施設を使っているのか、そのことから町民体育館や銀河アリーナや道の駅の裏の公園を活用することによって高校生の放課後が充実すると考えた。そこで、オンラインで予約状況を確認できると良いと考えた。

4. 仮説について

公共施設の予約表をオンラインで確認できるようにすると、放課後の時間を有意義に過ごせるのではないかと考えた、それは、放課後に時間を無駄にしたくない高校生が、今や当たり前となったSNSを活用し本別町の各公共施設の使用状況を確認することで、もっと、高校生が活発に活動できると考えた。

5. 解決策について

オンラインでの予約表の展開を最終目標とし、調査の結果をうのみにしていきなりオンラインでスタートさせるよりも、まず、紙面で情報を町民に提供し、そこから徐々に最終目標のオンラインに進めていく方が良くと考え、この過程で町民の意見を聞

きつつ、より良いものにしていければいいなと考えた。

6. 成果と課題

〔成果〕

調べる能力、自分が思うことではなく、アンケートなどを取ったり、実際に行ってはなしを聞いたりして、自分たちなりに調べてかけはしまでたどり着いたこと。

〔課題〕

実際にできないで、終わってしまったこと。

7. まとめ

最後、実現までいかなかったことやまだ完成していないため、それについては、次の2年生にまとめた資料を作って受け継いでもらう。

学んだことは、言葉だけを使って説明するより、グラフや数字を使って説明するほうが、分かりやすかったり、文字だけより説得力を求められることが分かった。

この探究活動で学んだことは、今後の生活に生かしていきたい。1、2年生へのアドバイスとして、発表に向けて、皆の前で三回以上は、発表しておいた方がよい。

最後に、藤井さん、コーチのみなさん約一年間ありがとうございました。自分たちが困っているときに、アドバイスをいただいたり、忙しい中、何度も本別高校に足を運んでもらい、ラインでもたくさんの言葉をいただきとても感謝しています。

コーチの皆さんはフィールドワークにも予定を合わせて付いてきていただいたり、写真もたくさん撮ってもらいとても感謝しています、ありがとうございました。

高校生の放課後を救おうプロジェクト

嶋田 諒 廣瀬乃愛 千葉彩音

概要

「高校生の放課後を充実させる」という目標のもと、町民体育館などの公共施設の予約状況をオンラインで活用できるようにすると充実するのではないかと考えた。そこで、暮らしの情報誌「かけはし」を活用することで紙面とオンラインの両面で展開でき、町民も活用できるシステムを提案する。

1. はじめに

高校生がならではの視点で地域の課題を見つけ出し、大人の力を借り、案を出すことにより高校生の想像力と実現するための力を育み、発想力の豊かな人間を育てる事ができる。

2. 課題について

町民体育館を利用しようと現地へ向かったものの、予約が入っており利用できなかったということが多々あり、そこから高校生の放課後を充実させるためにはどうしたら良いのかを考えた。そこから課題は予約状況を現地に行かなければ確認できないことだと考えた。

3. 現状分析について

課題から、初めに高校生が普段利用可能性の高い場所を書き出し、その中でも特に利用が多いと考える町民体育館や銀河アリーナなどの運動施設や、道の駅の裏にある公園などの公共施設を活用することで放課後の充実につながると考えた。そこで、運動施設限定になるがオンラインで予約表を確認できるようにすると良いと考えた。

4. 仮説について

現状分析から公共施設を有効活用する方針にし「公共施設の予約状況をオンラインで確認できるようになれば、放課後の時間を有意義に過ごせるのでは」と考えた。高校生の放課後を有意義に過ごしたい高校生が今や当たり前となったSNSを活用することで高校生の活発に活動できると考えた。

5. 解決策について

仮説から予約表のオンライン化を目標とし、実現までの期間をより短く、かつ、低コストで実現できるようにしたいと考えた。そこから、既存のサービスを活用したオンライン化に方針を固めた。しかし、本別町の条例を考慮すると LINE、Instagram、

TwitterなどのSNSの活用は難しいと判断し、HPである「ほっと本別」を活用する方針にしたが、紙媒体での予約表の広告化をすすめることで本別町民に大きなメリットがあると考え、紙、電子両面で発行されている暮らしの情報誌「かけはし」の存在を知りそちらを活用することに方針を固めた。

6. 成果と課題

〔成果〕

「予約表のオンライン化」という一見簡単そうに見えても複雑な問題が絡み合う難しい課題であったが、手段を選ばなければ実現できることが分かった。しかし、自分たちの思ったようなシステムを作るには時間と説得する力が必要だと感じた。後輩が取り組む際はぜひ実現してほしい。

〔課題〕

課題として大きく感じたのはアンケートのとり方だった。数字は人を納得させる上で大事な情報だが、自分の班は納得させるには足りない数字であった。また、探究の時間だけでは全く案が出ず、無駄な時間を過ごしてしまったのが反省としてもあげられた。案についての課題は、管理する人と経費ついて解決できれば、より現実味のあるものになったと考える。

7. まとめ

今後の活動については、継続していきたく考える。課題でも上げていたことが確実にできれば実現に近づけることができ、実現できれば町民の生活に必ずプラスになると考える。自分の夢と性格上、中学の時から地域活性化について触れ多くのアイデアを出してきたが、今回の総合的な探究の時間「とち創生学」で出た様々な考え方を将来に生かしていきたい。